

解説

■公立高入試に「特別枠」

日本で働く外国人の増加に伴い、その子どもたちの高校への進学機会を拡充する動きが加速し...

日本語習得 NPOと連携

受験の負担

東京都荒川区のNPO法人「多文化共生センター東京」は、家族と共に来日した外国人の子どもたちを主な対象に...

地域間で差

文科省によると、公立小中高校などの日本語指導が必要な児童生徒は全国で5万人を...

特別枠を新設したのは福井、広島、愛知、大阪、奈良が募集枠を前年より広げた。全校に...

外国人が比較的少ない県のほか、集住地域がある県でも...

は基本的に都道府県の判断で、財政負担も増える。高い中退率 先進的な取り組みで知られる神奈川県では、外国人生徒の多い高校に教員のほか、生徒の母語を話す支援員なども...

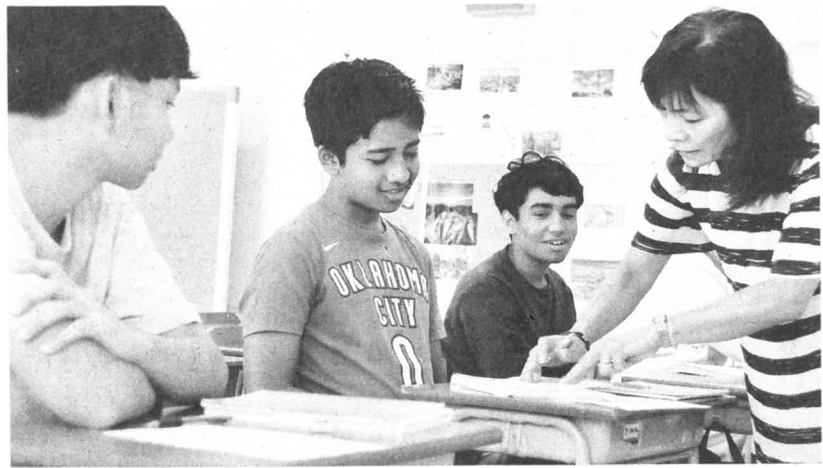
外国人 高校入学後も支援を

都は特別枠を拡大しているが、今春は8校150人の枠に217人が志願し、合格は簡単ではない。一般入試には...

公立高入試で外国人生徒の特別枠・特別選抜がある都道府県

Table with 2 columns: 都道府県 and 特別枠・特別選抜がある都道府県. Lists prefectures and their respective special admission programs.

※今春の入試、全日制、一部単位制を含む。帰国生徒を含む場合もある。【】内は拡充した自治体の前年比(読売新聞社調べ)



高校入試に向けた指導を受けるゼニートさん(左から2人目)ら(昨年10月、東京都荒川区の多文化共生センター東京で)

学校の指導 開いた進路

外国人の教育に関する文科省の有識者会議委員を務めたオチヤンテ・村井・ロサ・メルセデスさん(38)は写真1は1日、桃山学院教育大准教授に就任す...



り、一緒に入学した兄と私が日本語を学ぶ時間を設けてくれた」と振り返る。

周囲では卒業後、親と同様に自動車関連工場で働く若者が多かったが、一般入試を受けて県立の定時制高校に入学。面接では「勉強したい」と日本語で意欲を伝えた。「校長に理解があ...

京都の私立大、三重大大学院に進み、外国人の子どもの教育などについて研究してきた。三重県教育委員会に勤務し、小中学校で外国人児童生徒の支援に携わった経験もある。「将来も日本で暮らし、働くこ...

とを希望している生徒には、高校に進学し、卒業することがとても大切だ。入学後は進路の幅を広げる支援も充実させてほしいとオチヤンテさんは訴える。 池上重弘・静岡文化芸術大教授(多文化共生論)は「外国人の子どもたちは、複数の言語や文化を理解するグローバル人材になり得る存在だ。大学に進んで日本の企業に就職し、活躍する第2世代も目立つ。その一方で、母語も日本語も十分に習得していない『ダブルリミテッド』の若者が少なくない」と話す。「小中学校に比べて遅れている高校の受け入れ態勢を整え、中退を防ぐことも必要だ」と指摘している。